

三浦修道院の「回勅 ラウダート・シ」の取り組み

“神様から創造された全被造界の小さないのちに仕える”

環境時代における聖母訪問会の歩みは、1970年頃から始まりました。

日本の高度経済成長期の時代で、環境社会問題が多く報じられ私たちの生活を見直す必要を迫られました。そして2002年 定期総会において神様が創造された全被造界を視野に私たちの生き方の転換を図ろうとしました。そして以下の「宣言」を私たちの生き方の中心に入れるように努めています。

「私たちは、神から創られた“いのち”の営みに立ちかえり
すべての生命との共生の価値に目覚めた礼拝と愛の交わりを生きる。」

この「宣言」の具体化として、三浦修道院が生まれました。



この修道院は、広い境内を有し雑木、竹林など自然に恵まれ、建物はいつか自然に還っていくことを考慮して木造建築にいたしました。

このよう環境の中で 日々のいのちの営みにたちかえることを原点に生活しています。

教皇様の回勅にあるように、私たちの住む地球、私達と共に住むこの家に起こっている現実を抱きながら、日々祈りと小さな実践に励んでいます。私たちのここでの小さな生き方がラウダート・シ実現への歩みの中に組み込まれていると実感しています。



日々の実践として、自然との関わり、草木、竹林の手入れなど
又果樹園、畑などは大きな仕事です。



当初からしていた土づくりそして今 堆肥作りを基本にしています。そして分かち合う程の収穫を得ています。野菜のくずや残飯は出来るだけ土に帰すように努めコンポストやキエーロを利用して土に帰し 土のいのちを大切にしています。



基本的な姿勢のもう一つは、食生活の見直しが挙げられます。
旬産旬消、そして出来るだけ地産地消にも努めています。
グローバル化の時代完全には難しいですが、国内自給率を
上げること、地球温暖化もあり努力しています。
調味料についても、出来るだけ添加物の少ないものを選ぶよう
心がけています。神に創造された人間の生命への尊厳から
心がけています。

食生活改善に心がける歩みの中で私たちは、日々共に食事する
歩みの中で キリストの食卓を囲むことにつながることに気づかされています。
私たちの歩みはささやかですが、小さなのちに支えられながら
仕えさせて頂いていると実感しています。そしてこれらの歩みは
神への礼拝につながっていると感じています。

「宣言」の歩みの中で呼びかけられた、がん哲学外来メディカルカフェがあります。
順天堂大学樋野興夫先生の提唱されたもので、癌患者さんと医師との間の存在として、
全国的に広がりつつあるようです。

私達も教会の信者さんたちとシスターズで始めています。
患者さん本人と同時にそのご家族、友人たちの心の
痛みに寄り添う生き方としてカフェをとうして、
グループ同伴をしています。樋野先生のお言葉に
“病気であっても病人でない”と。3年目を歩む中で
人間の生命、存在の尊さを改めて重く受けとめさせて
頂いています。



横浜教区エンコムのもとで、入国管理局に面会(牛久)やフィリピン司牧に関わり、
勉強会や黙想会(三浦修道院)の実施、共同体として入管における外国の方がたの
状況や在日のフィリピンの方がたの日本での信徒としての生きる姿を理解させてもらいつつ
日本における難民、外国籍の方がたの受け入れの狭さを肌で感じています。
私たちの回心を願いつつ法規改正への促しも実感しています。
フィルムス(全国フィリピン司牧に関わる司祭、修道者、宣教者)
に関わりパストラル司牧の研修に参加し協力しています。

